

事業実施報告

開催日	令和4年8月31日(水)、9月7日(水) ※事後サポート 11月16日(水)		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」		
開催場所	岩手県立葛巻高校	参加人数	54人
参加学校名等	岩手県立葛巻高校		
関係機関名	岩手県教育委員会(後援) 岩手県立大学サークル「えんぶらり。」		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期と実施内容を変更し、高校を会場に二週にわたって事業を実施した。今回、探究テーマが既に決定した段階での実施となったため、そのテーマに対する新しい視点を得ることや次の実践へとつなげることをねらいに、イメージマップの作成と問いづくり、岩手県立大学サークル「えんぶらり。」との交流、地域貢献活動の事例学習を行った。また、これまでの実践活動の振り返りと地方ステージのエントリーに必要な実践活動報告書の作成のサポートを行った。なお、地方ステージにエントリーする予定であったが、体調不良等により見合わせる事となった。

【事業の成果】

① コロナ禍のオリエンテーション研修と実施内容の厳選

実施内容を厳選した出張型の研修とし、テーマに対する新しい視点を得ることや次の実践へとつなげることをねらいに、イメージマップの作成と問いづくりを行った。また、事業内でのフィールドワークの実施が難しいと判断されたため、アクションの実実施計画につながる研修内容とした。アンケートのうち、感想記述のワードクラウド【写真Ⅳ】を見ると、「深める」「活かす」といった用語が大きく表れていることから、研修効果が得られるものを提供できたと解する。

② 「ナナメの存在」である大学生との交流

学校でのカリキュラムにおいて、地域の大人との交流が多く行われていることから、今回は高校生と同じ目線に立ってアドバイスができる、「ナナメの存在」である大学生との交流を通して、探究テーマに関する視点を広げたり、深めたりする取組を行った。学校の許可を得て、事前に高校生の探究テーマを共有し、どういったコメントや問いかけができるかを考えてもらった。さらに、大学生たちが各グループとの交流中に思ったこと、高校生の様子等をまとめたコメントシートを作成し、学年の先生方と共有し、次の実践へとつなげられるように工夫した。

【課題】

① 合宿の難しさ、日程の検討

今後、ウィズコロナの社会情勢になったとしても、探究学習のためだけに合宿を行うといった動機にはなりにくいことが推察される。だとすれば、他の合宿行事で利用されている高校に「地域探究プログラム」も併せて実施することを提案していくことが現実的と解する。

地方ステージ期間中に岩手県教育委員会主催の高校・大学連携事業「ウィンターセッション」が開催されており、県内高校生の多くがこの事業に参加している。そのため、地方ステージの開催時期を1月中旬にするなどの検討が必要である。冬季休業明けに実施したほうが少しでも実践活動を蓄積できるのではないかと。

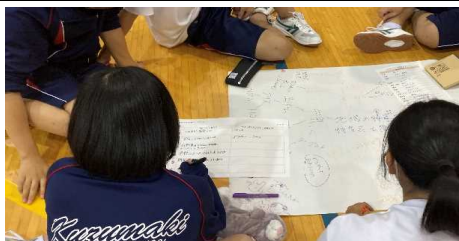
② 柔軟なカリキュラムの実施

①の提案を実現するには、高校の実態と当施設でできることの両面からみて実現可能な研修内容という意味で、柔軟なカリキュラムが必要不可欠である。例えば、フィールドワークは高校が所在する地域で実施したほうが効果的な場合がある。当施設で提供すべきカリキュラムの重点は、探究学習の意義、テーマの設定、探究方法といった入門的かつ基礎的なガイダンス、地域課題を見つけるための見方・考え方を養う講座だと考える。また、探究学習を円滑に行うにあたって、その基礎となる人間関係づくりの活動を盛り込むことも検討したい。

状況写真



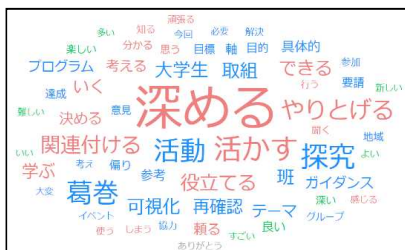
I グループでイメージマップを作成



II グループで問いづくりに取り組む



III 皆でイメージマップを共有



IV 生徒の感想記述を視覚化



V 大学生と探究テーマを語り合う



VI 実践活動報告書の作成をサポート